

資料2

北九州市生涯学習推進計画 (令和6年度評価) について

北九州市生涯学習推進計画の評価について

(1) 基本的な考え方

令和3年度に策定した「北九州市生涯学習推進計画《“学びと活動の環”推進プラン》」（以下、現計画という。）に掲載された施策及び事務事業を対象として、「令和6年度」の進捗状況を、策定時に設定した指標等に基づいて、有効性などの視点から点検・評価し、施策及び事務事業の今後の推進に活用する。

(2) 評価の方法

ア 評価の実施範囲

- 【施策】 現計画を構成する3施策
【事務事業】 158事業（再掲事業を除く）

イ 評価の視点及び表示

(ア) 施策ごとの評価

指標の達成状況、モニタリング項目の推移及び施策の実績・成果・有効性、構成事務事業の進捗状況を踏まえ、評価する。

A：大変順調 B：順 調 C：やや遅れ D：遅 れ

※ 参考：施策の種類

柱1	誰もが気軽に「学び」と「活動」に参加できる環境づくり
柱2	「学び」と「活動」による人づくり
柱3	「学び」と「活動」によるつながりづくり

(イ) 施策の指標評価

計画策定時に3施策ごとに指標及び令和7年度の目標値を設定。年度毎に、目標に向けて設定した参考値に対する達成率に基づき、4段階評価を行う。

A：大変順調 (100%以上) B：順 調 (90%以上)
C：やや遅れ (70%以上) D：遅 れ (70%未満)

※ 指標については、今後、生涯学習を取り巻く社会状況の変化等が生じた場合は、必要に応じて見直しを行うこととする。

※ 行政評価の評価基準とは異なる。

参考：行政評価の評価基準（成果指標の達成率を基準に評価）

原則として、120%以上「大変順調」、60%以上「順調」、40%以上「やや遅れ」、40%未満「遅れ」

(ウ) 事務事業の進捗状況

各事務事業の実施状況、事業の有効性、効率性、前年度実績との比較等を総合的に判断して、次の4段階評価を行う（目標値等は設定していない）。

a：大変順調 b：順 調 c：やや遅れ d：遅 れ

※ 新型コロナウイルス感染症の影響により、評価できない場合は、評価欄に「－」を記載

北九州市生涯学習推進計画《”学びと活動の環”推進プラン》の体系と全体評価

計画の目標

基本方針

施策の柱

施策の全体評価

市民が学び、つどい、まちは輝く。学びと活動の環を広げよう。

- ①人生100年時代を豊かに生きるための生涯学習社会づくり
- ②「学び」と「活動」が循環する生涯学習社会づくり
- ③多様な主体のネットワークによる生涯学習社会づくり
- ④子どもの成長への関わりを通して「家庭」や「地域」の力が高まる生涯学習社会づくり

施策の視点

- きっかけづくり
- 人づくり
- つながりづくり
- 地域づくり
- ネットワークづくり
- 多様性への対応
- 支援体制づくり
- 行財政改革

柱1
誰もが気軽に「学び」と「活動」に参加できる環境づくり

- (1)「学び」と「活動」の情報提供の拡充
- (2)気軽に相談ができる体制づくり
- (3)多様な「学び」の機会の提供
- (4)「学び」と「活動」の場づくり

R5年度

B 順調

R6年度

C やや遅れ

柱2
「学び」と「活動」による人づくり

- (1)「学び」と「活動」を通じた人材の発掘・育成
- (2)「学び」と「活動」をつなぐ人材の発掘・育成

C やや遅れ

C やや遅れ

柱3
「学び」と「活動」によるつながりづくり

- (1)「学び」と「活動」による仲間づくり
- (2)つながりから生まれる地域への愛着・誇り
- (3)学校と家庭・地域がつながる教育力の向上

B 順調

B 順調

施策の柱1 誰もが気軽に「学び」と「活動」に参加できる環境づくり

1 全体評価





令和5年度	令和6年度	
B 順調	C やや遅れ	<p>(1) 指標の「生涯学習の情報が取得できている人の割合」が、R6年度は36.4%と前年度比4.3ポイント上がり、「過去1年間に学習活動した人の割合」は、R6年度は36.4%と前年度比10.7ポイント下がっている。「学習活動に満足している人の割合」は、R6年度は71.5%と前年度比17.9ポイント下がり、「生涯学習関連施設の利用者数」は、前年度比62万人増加している。</p> <p>(2) モニタリング項目のまなびネットひまわりアクセス件数は、前年度から3,364件増加したが、障害のある人を対象とするスポーツ教室や講座の参加者は減少している。まなびネットひまわり講師登録者数は、前年度から21人増加したが、講師依頼件数は前年度から12件減少した。人材マッチング事業実施件数は、R6年度は195件と前年度から53件減少した。</p> <p>(3) 事業評価表の個別事業については、概ね「順調」であるが「やや遅れ」ているものもある。</p> <p>総体的には「C やや遅れ」とした。「学び」と「活動」に参加できる環境づくりを促進するため、SNSの活用や関係団体等との協力・連携を強化して、学ぶ機会や活動する機会の情報提供に努めるとともに、地域活動やボランティア活動との人材マッチングを図っていく。</p>



























2 指標等

◎指標		現状値		参考						目標
R5 評価	R6 評価	指標		R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
C	C	生涯学習の情報が取得できている人の割合 《市政モニターアンケート》	参考値			39.8%	42.3%	44.9%	47.4%	50%
			実績	37.2%	42.2%	45.1%	38.4%	32.1%	36.4%	
			達成率			113.3%	90.8%	71.5%	76.8%	
C	D	過去1年間に学習活動した人の割合 《市政モニターアンケート》	参考値			59.5%	62.1%	64.8%	67.4%	70%
			実績	56.9%	48.9%	45.9%	32.6%	47.1%	36.4%	
			達成率			77.1%	52.5%	72.7%	54.0%	
B	C	学習活動に満足している人の割合 《市政モニターアンケート》	参考値			89.8%	91.1%	92.4%	93.7%	95%
			実績	88.5%	87.9%	75.5%	93.4%	89.4%	71.5%	
			達成率			84.1%	102.5%	96.8%	76.3%	
A	A	生涯学習関連施設の利用者数 《各施設所管課集計》	参考値			前年度以上	前年度以上	前年度以上	前年度以上	前年度以上
			実績	14,033千人	6,238千人	7,546千人	11,187千人	11,667千人	12,287千人	
			達成率			121.0%	148.3%	104.3%	105.3%	

A：大変順調（100%以上） B：順調（90%以上） C：やや遅れ（70%以上） D：遅れ（70%未満）

◎モニタリング項目

全18項目中  8項目  9項目  0項目  1項目

R5 推移	R6 推移	モニタリング項目	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
		○生涯学習という言葉を知っている人の割合	95.5%	98.5%	98.5%	97.2%	97.4%	
		○まなびネットひまわりアクセス件数	13,502件	9,610件	8,859件	9,399件	12,763件	
		○いきがい活動ステーションの利用者数	1,042人	2,438人	5,531人	6,687人	5,780人	
		○生涯学習総合センター学習相談件数	12件	59件	183件	127件	171件	
		○市民カレッジ受講者数	529人	721人	1,115人	1,147人	1,062人	
		○市民カレッジ受講者の満足度	99.1%	99.0%	98.0%	98.0%	97.5%	
		○市立図書館（ひまわり文庫を除く）における市民一人当たりの貸出冊数	2.5冊	3.2冊	3.4冊	3.3冊	3.2冊	
		○障害者芸術祭作品展の出展数	203品	260品	225品	268点	299点	
		○障害者スポーツ教室・障害者スポーツ大会の参加者数	775人	766人	1,293人	1,869人	1,493人	
		○東部・西部障害者福祉会館で行う障害のある人を対象にした講座の開催回数	73回	72回	70回	82回	66回	
		○東部・西部障害者福祉会館で行う障害のある人を対象にした講座の参加人数	402人	610人	646人	767人	647人	
		○外国人が日本語や日本の生活習慣を学ぶための地域の日本語教室の開催箇所数	17教室	17教室	17教室	19教室	20教室	
		○生涯学習市民講座のうち「共生のまちづくり」を学習目標とした講座数	107講座	123講座	156講座	146講座	159講座	
		○北九州市立大学i-Designコミュニティカレッジ各領域の履修生数	コロナにより受入を中止・延期	37人	48人	40人	46人	
		○「本市は生涯にわたって自由に学び、その成果を活かした活動を行う環境が整っていると感じる」と回答した人の割合	63.3%	59.5%	55.1%	アンケート実施なし	アンケート実施なし	
		○まなびネットひまわり講師登録者数	223人	209人	224人	123人	144人	
		○まなびネットひまわり講師依頼件数	8件	9件	14人	23件	11件	
		○人材マッチング事業実施件数 ※R4からマッチング希望数ではなく、成立件数を計上することとし、R2、R3年度も成立件数に変更した。	37件	156件	123件	248件	195件	

施策の柱1 誰もが気軽に「学び」と「活動」に参加できる環境づくり

			← 計 画 →			← 実 績 →			← 績 績 →			← 評 価 ・ 方 向 性 →					
具体的な施策	取組	番号	事務事業	所管課	概要（目的）	R6年度 予算額 (千円)	R6年度 決算額 (千円)	令和6年度実績・実施状況	活動指標	R5年度	R6年度	成果指標	R5年度	R6年度	R6年度 進捗 状況	進捗状況の評価理由	今後の方向性
(1) 「学び」と「活動」の 情報提供の拡充 ①「学び」と「活動」の 一元的な情報提供	①	1	「まなびネットひまわり」(管理運営)	総務市民局 生涯学習総合センター	ホームページ「まなびネットひまわり」を活用して、市内の生涯学習に関する学習機会や講師の情報等、様々な情報を一元的に提供し、生涯学習活動の促進を図る。	217	200	関係機関への情報提供の呼びかけや講師登録に対する問い合わせの対応を行った。	まなびネットひまわりへのアクセス数	9,399件	12,763件	過去1年間に生涯学習活動をした割合(生涯学習活動への参加率)	47.1%	36.4%	c:やや遅れ	HPへのアクセス数は増加しているが、生涯学習活動への参加率は低下したため「やや遅れ」と判断。	興味を惹く、より多くの講座情報や講師情報を一元的に提供することにより一層磨き、学習から活動へ、そして活動から学びへと繋がる「生涯学習活動の促進」に寄与する。
	①	2	高齢者いきがい活動支援事業	保健福祉局 長寿社会対策課	高齢者の社会参加やいきがいを促進するため、高齢者の参加しやすいボランティア・生涯学習情報等に関する情報の収集・提供等を行う。	9,700	9,479	R6年8月よりいきがい活動ステーションを男女共同参画センタームーブへ移転	利用者数	6,687人	5,780人	利用者アンケート満足度	100.0%	100.0%	b:順調	移転準備として1ヶ月間休館したことで、R5年度に比べ利用者数は減少したが、アンケート結果(満足度)は良好であったため「順調」と判断。	スマホ講座や終活等、高齢者の新たな情報ニーズに対応することにも、今後は就労支援機能の付加等を図りながら、高齢者の社会参加やいきがいを促進の推進を行う。
	②	3	生涯学習総合センター情報発信事業 ニュースレター「まいなび21」	総務市民局 生涯学習総合センター	生涯学習総合センター主催事業や生涯学習関連情報等を掲載した市民向けの情報紙を発行する。	予算措置なし	予算措置なし	令和6年4月1日号を以て、終了(令和6年3月納品分)。	発行部数	14,000部	0部	年間発行回数	4回	0回	-	令和6年4月1日号を以て、終了(令和6年3月納品分)。	令和6年5月からは、まいなびニュースレター(5版)として、毎月発行。コミュニティ支援課や市民センターへの配布、noteへの掲載により、市民力レレッジを中心とした講座案内を行っている。
(2) 気軽に相談できる 体制づくり ①「学び」の相談体制づくり	①	4	生涯学習総合センター学習相談事業	総務市民局 生涯学習総合センター	施設ボランティアの協力のもと、学習相談コーナーを定期的に開設し、生涯学習に関する様々な相談にきめ細かく対応する。	予算措置なし	予算措置なし	施設ボランティアの協力のもと、生涯学習相談やパソコンなんでも相談等を毎週実施する。R6年9月からは、パソコン相談とは別に週1回スマホ相談を実施した。	学習相談事業の相談件数(延べ相談者数)	127件	171件	相談者の相談内容に対する問題解決率	100.0%	100.0%	b:順調	スマホ相談を加えたことにより、44件の相談件数増となり全体として見れば順調である。一方で、その他の相談件数は1桁台に留まっており、相談者を取り込めていない。	パソコン相談以外の学習相談についても、広報等により周知を図り利用者増につけていきたい。
(3) 多様な「学び」の機会の提供 ①「学び」のきっかけづくり	①	5	生涯学習市民講座の充実	総務市民局 生涯学習課	市民の学習活動を支援し、一人一人が健康で心豊かな生活を送り、個人のいきがいづくりや生活に必要な知識、技術を習得するだけでなく、地域課題や社会的課題を解決するため、各市民センター等で幅広い分野にわたる講座を実施する。	9,781	9,129	各市民センターにおいて、「共生のまちづくり」「『学び』を通して地域で活躍できる人材の育成」「環境意識の高揚」「男女共同参画の推進」「健康づくりの支援」「こども・青少年の健全育成」「安全・安心のまちづくり」「人権文化のまちづくり」「シックプライドの醸成」の9つの分野の講座が851講座開催され、延べ94,551人の参加があった。	生涯学習市民講座数	891件	851件	生涯学習市民講座参加者数	97,014人	94,551人	b:順調	活動指標である市民講座数はR5年度から微減しており、成果指標である市民講座参加者数は前年度比97%であった。以上のことから「順調」と判断。	より地域の特徴を生かした講座、地域課題解決に向けた講座となるよう市民センター館長研修の充実を図り、多くの方に多様な学習機会を提供していく。 また市公式LINEによる市民センター情報発信を継続しSNSの活用を検討していく。事業実施方法や情報発信については、市民センター館長・職員等研修を活用しながら引き続き検討していく。
	①	6	北九州市民力レレッジ事業	総務市民局 生涯学習総合センター 総務市民局 生涯学習総合センター	市民の多様な学習ニーズに対応した生涯学習機会を提供し、自己実現の促進及び「循環型生涯学習社会」を担う人材の育成を図る。	4,134	3,055	R6年度の実績として、受講者数1,062人(内スポット受講172人)で、前年度に比べ85人減となっており、申込者の割合も減少傾向にある。 また、全体受講者の約73%を60歳代以上が占めている。現役世代を取り込み、受講後の「学び」から「活動」につながるような講座の実施・展開について、検討していく必要がある。	講座数	52件	51件	受講者数	1,147人	1,062人	b:順調	講座数、受講者数ともR5年度を下回っているが、スポット受講の受講者数は増加しており、比較的若い世代も取り込むことができている。また講座の満足度も高い水準を維持できているため「順調」と判断。	定員を満たした講座は、R6年度は50講座中6講座(放送大学コラボ講演会を除く)のみであった。(R5年度は51講座中14講座)。内容や時間帯等の見直し、大学生等の高等教育機関と連携して、市民のニーズや現代の課題に対応するテーマについて検討を行う。受講者の幅を広げるとともに、受講後の活動につながる講座となるよう工夫し、取り組んでいく。
	①	7	北九州ひとみらいプレイスの充実	総務市民局 八幡西生涯学習総合センター 総務市民局 八幡西生涯学習総合センター	各施設の特徴や専門性を生かし、子供から高齢者まで、年齢、国籍、文化、障害の有無を問わず、若者成長の支援、あらゆる世代の学びの充実、さまざまな団体の活動支援、すべての市民の交流促進に取り組む、幅広い人づくりを支援する。	2,600	1,849	1 人づくり支援事業 グローバル人材育成事業 パネル展を除き、6事業実施。 参加者計763名 2 連携事業「気まにセミナー」 3 10講座実施。 受講者数214名 3 にぎわい創出事業「ひとみらい交流マンス」 期間 R6年10月2日～R6年11月23日 参加者 32,607名(関連事業も含める)	北九州ひとみらいプレイス11施設の集客人数	87万人	95万人	北九州ひとみらいプレイスで実施する講座、セミナー等の満足度	98.9%	97.3%		R4年度以降、これまでの「ひとみらい交流ウィーク」を「ひとみらい交流マンス」として事業期間を拡大し、各施設で集中して事業を実施するとともに、構成施設が共同で行う事業にも着手した。集客状況は改善し、施設間の連携強化を図りにぎわい創出に繋げることができた。 さらに、講座・セミナー等の満足度については、高水準を維持していることから「順調」と判断。	ひとみらいプレイス構成施設間の連携強化を図り、多様な層の参加・交流促進に繋がる事業を検討し、引き続きひとみらいプレイスの認知度向上に努める。
	①	8	年長者研修大学校(周望学舎・穴生学舎)	保健福祉局 長寿社会対策課	高齢者に対して教養、健康、レクリエーション等の研修の場を提供することにより、高齢者の生きがいづくり、健康づくり、社会活動の促進及び地域活動の担う高齢者の人材育成を図る。修了生の組織でボランティア活動を実施する。	146,483	146,686	≪実績≫ 令和6年度受講者数：822人 年間講座実施数： 穴生学舎1,110回、 周望学舎1,104回	年間コース実施数	30件	30件	総合的な満足度	97.8%	97.2%	b:順調	コロナ禍以前に比べて受講者数が少ない状況が続いているが、アンケートによる総合評価が良好であったため「順調」と判断。	地域活動の担う人材育成の場としての機能強化と、新たに就労支援やDX等の取組を進めていくとともに、他部署事業との連携強化を図っていく。
									年間コース受講者数	775人	822人						

施策の柱1 誰もが気軽に「学び」と「活動」に参加できる環境づくり

			← 計 画 →			← 実 績 →			← 績 績 →			← 評 価 ・ 方 向 性 →					
具体的な施策	取組	番号	事務事業	所管課	概要（目的）	R6年度 予算額 （千円）	R6年度 決算額 （千円）	令和6年度実績・実施状況	活動指標	R5年度	R6年度	成果指標	R5年度	R6年度	R6年度 進捗 状況	進捗状況の評価理由	今後の方向性
②ライフステージや多様性に応じた学習機会の提供・充実	①	9	ESD推進事業	環境局 環境学習課	持続可能な社会の実現に向けて、産学官民の多様な主体から成る「北九州ESD協議会」をプラットフォームとして、環境はもとより人権・平和など幅広い視野から総合的に取り組む人材の育成を図る。 【ESD＝持続可能な開発のための教育】	16,000	12,752	「ESDツキイチの集い」「韓国スタディツアー」「交流イベント」「ESD出前講座」など、学びとネットワーク形成を目的とした各種事業を継続的に実施した。 また、今年度は国内RCE実務者会議を北九州市で開催し、ユースメンバーが運営面で重要な役割を果たし、次世代担手の成長と実践の機会につなげることができた。	活動団体登録数	95団体	95団体	アンケート調査における「持続可能な社会づくり」を意識している市民の割合	91.2%	-	b:順調	「会員が主体となる組織運営」の実現に向けて、R5年度に発足した新たな運営体制を本格的に移働させた。 また、国内RCE実務者会議では、北九州のESDの成果を発信し、会議の企画・運営にはユースが中心に関わるなど、若者主体の協働の成果が顕著に現れたため、「順調」と判断。	ESDの実践の場としての協議会機能をより一層強化し、ユース世代の参画と育成、新規団体の参画促進、地域を超えたRCEネットワークとの連携強化など、次のステージに向けた基盤づくりに注力する。
	①	10	デジタル活用講座	政策局DX・AI推進室	社会のデジタル化が進化する一方、2020年市民調査では約25%の市民がインターネットを利用していない状況であり、インターネット未利用理由で上位の「機器操作が難しい」等の課題に対応するため、高齢者等、スマートフォン等の操作に不慣れな方がスマートフォン等の操作にチャレンジするための第一歩となるような講座を市民センターと連携して実施する。	予算措置なし	予算措置なし	市民センターにて、スマートフォンの操作に不慣れな方を対象に、スマートフォンの基本操作等を体験する「デジタル活用講座」を実施。（31施設、40回、受講人数は延べ564人。）	講座の実施	1,244回	40回	市民のインターネット利用率 （5年に1回の調査） ※ 直近の調査はR1年度で74.8%	/	R6調査 85.9%	a:大変順調	多くの高齢者等、スマートフォンの操作に不慣れな方に受講いただけたこと、成果指標である市民のインターネット利用率が上昇していることから、「大変順調」と判断。	今後も継続的に講座を実施し、市民のデジタル活用へのきっかけづくりに努めたい。
	②-1	11	育児サークル・フリースペース活動への支援	子ども家庭局 こども若者成育課	乳幼児の親同士が交流を通じて、自主的な活動を行えるよう育児サークルを支援する。また、自由に参加・利用できるフリースペースの活動を支援するとともに、地域で子育てをしやすいシステムづくり、仲間づくりを支援する。	5,390	6,273	育児サークル及びフリースペースの活動を支援するとともに、地域で子育てをしやすいシステムづくり、仲間づくりを支援した。	子育てに関わる団体等への補助件数	119件	107件	市内で活動する育児サークル等の団体数	438団体	443団体	b:順調	市内で活動する育児サークル等の団体数が5件増加した。市内での活動が順調に継続していることから、「順調」と判断。	子育てにかかわる団体の自主的活動を活性化させるため、支援内容について継続的に検討していく。
	②-1	12	親子ふれあいルーム運営事業	子ども家庭局 こども若者成育課	子育て中の親と子が気軽に集い、相互に交流を図る場である親子ふれあいルームを運営し、施設の充実や利用日の拡大、相談対応の充実などの機能強化を図る。また、市民センターをはじめ、子育て支援団体、育児サークル等と連携し、ネットワーク化を図るなど、地域における子育て支援に取り組む。	38,627	38,457	親子ふれあいルームを運営し、施設の充実、相談対応の充実などの機能強化を図った。また、市民センターをはじめ、子育て支援団体等と連携し、ネットワーク化を図り、地域における子育て支援に取り組んだ。	親子ふれあいルーム実施箇所数	区役所等7カ所 児童館9カ所	区役所等7カ所 児童館9カ所	親子ふれあいルーム利用者数（乳幼児数）	31,779人	33,497人	b:順調	多くの乳幼児とその保護者に利用され、親子同士の交流や子育てへの不安や負担の解消に寄与していることから「順調」と判断。	親子ふれあいルームの質の向上や利用促進を図るため、運営スタッフへの研修の実施など異なる取組みを検討していく。
	②-2	13	青少年体験活動の啓発・広報の推進	子ども家庭局 こども若者成育課	市や市民団体・NPO団体等が実施している青少年体験活動についての情報発信を行う。	824	1,034	・年2回発行（夏号・冬号） ・原稿掲載月（夏号→7～10月）（冬号→11～3月） ・市内小学校全校配布 他 ・1回50,000部 作成	キッズチャレンジの発行	2回	2回	事業掲載団体数および事業数	（夏号）13団体30事業 （冬号）13団体35事業	（夏号）13団体30事業 （冬号）17団体34事業	b:順調	体験活動情報誌「キッズチャレンジ2024」では各団体のイベント情報を掲載し、大変好評いただいた。 また、掲載記事の調整をすることにより、掲載団体数が増加したことから、「順調」と判断。	掲載原稿数を拡大するため、A5冊子からA4冊子への変更を検討していく。 また、団体の活動情報をより多く発信するため、希望団体による買取紙面の実施を検討していく。 配布先を市内のフリースクールを加えることで事業の周知を図る。
②-3	14	北九州市立大学i-Designコミュニティカレッジ	北九州市立大学（政策局総務課）	当カレッジのためにデザインされた必修科目と、大学の多彩な科目の中から学生と一緒に学べる科目等を選択できるプログラムを提供し、社会人の学び直しを支援する。	大学の事業のため予算措置なし	大学の事業のため予算措置なし	R6年度は、「学問と人生」、「地域創生」、「こころの科学」、「多様な世界との対話」、「社会人のためのデータサイエンス基礎」の5つの領域を開講した。なお、「こころの科学」領域においては、従来の夜間開講に加え、新たに昼間にも開講し、昼夜開講とした。	i-Designコミュニティカレッジの実施	履修生数40名	履修生数46名	/	/	/	a:大変順調	一定数の履修生数を得ており、R6年度修了生の満足度は94%と高い評価を得ているため「大変順調」と判断。	R7年度は、「地域創生」、「こころの科学（昼夜開講）」、「多様な世界との対話」、「社会人のためのデータサイエンス基礎」の4領域を開講する。「学問と人生」領域は閉講し、その後継となる新領域の令和8年度開講へ向け、準備を進める。 次年度へ向けて、広報活動を幅広く行い、より多くの履修生の受入れを目指す。	
②-5	15	日本語教育体制整備事業	政策局 国際政策課	日本語でのコミュニケーションが困難な外国人市民のために、日本語教室を運営するとともに、市内で日本語学習支援を行っているボランティアグループ（13団体）との連携や、助成金の交付、広報協力、スキルアップ研修などを実施することで、日本人と外国人の相互理解および学習機会の充実を図る。	6,530	8,322	（公財）北九州国際交流協会において学習者のニーズに合わせた4つの日本語教室や交流会を運営するとともに、日本語教育人材に対する研修や企業・夜間中学校などの外国人受け入れ団体へのヒアリングおよびモデル事業の実施など、日本語教育の推進に多角的に取り組んだ。	日本語教室に関する事業の実施	4教室	4教室	（公財）北九州国際交流協会が主催する日本語教室開催実績	134回	170回	b:順調	成人向けの日本語教室に関しては、学習者の利便性を第一に考え、教室への移動などが不要となるオンラインを活用した授業を実施し、かつ、学習者の年齢や習熟度に合わせた質の高い教室運営を継続している。 児童生徒を対象とした「にほんごひろはる」は、学習者のニーズや習熟度などを考慮してオンラインから対面形式のやり方に変え、児童生徒に手厚い指導ができること、かつ、その保護者も学ぶ機会が提供できるように、日本語教室再編の検討をおこなった。R7年度以降の本格的な実施に向け、R6年度は試行的に夏休みと入学前の一期間のみ教室を開催した。 以上より「順調」と判断。	（公財）北九州国際交流協会主催の日本語教室の円滑な運営に加え、地域の日本語教室への運営支援を継続する。 また、学習者に対してさらに効果的な日本語教育を提供するため、教室の再編成について検討する。	

施策の柱1 誰もが気軽に「学び」と「活動」に参加できる環境づくり

			← 計				→		← 実		→		← 績		→		← 評 価 ・ 方 向 性 →		
具体的な施策	取組	番号	事務事業	所管課	概要（目的）	R6年度 予算額 （千円）	R6年度 決算額 （千円）	令和6年度実績・実施状況	活動指標	R5年度	R6年度	成果指標	R5年度	R6年度	R6年度 進捗 状況	進捗状況の評価理由	今後の方向性		
③現代的・社会的な課題 の解決に向けた学習機 会の提供・充実	②-5	16	社会参加講座開催事業 （障害者福祉会館の 指定管理事業の一部）	保健福祉局 障害福祉企画課	障害のある人の日常生活に役立つ知識の 習得や、社会参加の促進を図る。	1,716	1,587	社会参加講座を広く周知するため、今年度は講座自体の回数は減らし、出前講演等を積極的に行った。	講座開催回数	82回	66回	講座開催回数	82回	66回	b:順調	R5年度に比べて講座の回数は減少したが、ニーズに合った講座を行うことで、多くの市民に満足をしていただいたため「順調」と判断。	引き続き、障害のある人の自立の援助や生きがいを高める講座を開催していく。また、アンケート調査等をもとに、講座の内容を精査し、ニーズに基づいた講座実施に努める。		
									参加者数	767人	647人	参加者数	767人	647人					
	②-5	17	障害者スポーツ教室等開催事業	保健福祉局 障害福祉企画課	障害のある人がスポーツを通じて体力の維持・増強、機能回復を図る。	2,360	2,360	昨年度よりも教室の回数を増やし、幅広い人に参加していただくことが出来た。	障害者スポーツ教室等 開催回数	81回	95回	障害者スポーツ教室等 参加者数	1,622人	1,222人	b:順調	R5年度は新規の団体参加が多く、参加人数が大幅に増えた。R6年度も開催回数を増やし、例年並みの参加者数であったため「順調」と判断。	アンケート調査の結果も参考にしながら、引き続き多くの人が参加しやすい教室の開催に努める。		
	②-5	18	北九州市障害者芸術祭	保健福祉局 障害福祉企画課	障害のある人の芸術・文化活動への参加を通じて、本人の生きがいや自信を創出し、社会参加を推進するため、北九州市障害者芸術祭（ステージイベント、作品展）を開催する。	2,360	2,360	昨年度に引き続き、ふれあいフェスタ2025と合同で開催した。	障害者芸術祭の開催	有	有	障害者芸術祭 出展数 障害者芸術祭 来場者数	263点 1,537人	299点 1,424人	b:順調	出展数については、過去最多の299点となった。来場者数についても、多くのの人に楽しんでもらっているため「順調」と判断。	関係団体と連携を図り、より多くの人に障害のある人の芸術を知ってもらえる機会になるように、引き続き努める。		
	③-1	19	人権市民講座	教育委員会 企画調整課	人権問題に関する市民の正しい理解と認識を深めるため、市民センターにおいて人権学習を推進する。	7,306	6,716	市民センターで実施	人権市民講座 実施回数	370回	365回	人権市民講座 参加者数	11,533人	11,548人	b:順調	講座の実施回数は前年を僅かに下回ったものの、人権市民講座への参加者は増加したため「順調」と判断。 加えて、講座形式にとらわれず、市民が人権に触れる機会を積極的に提供することができた。 【人権に関する話題提供】 実施：413回 人数：42,364人	市民が参加しやすい人権市民講座の実施に向けて、新任館長研修や人権まちづくり講演会等の場を通じて、市民センター館長や職員の資質向上を図る。 また、引き続き、市民が日常的に人権に触れる機会を積極的に提供する。		
	③-3	20	企業や地域等でのワーク・ライフ・バランスの取り組み支援	政策局 WomanWill推進室 （旧 総務市民局女性の輝く社会推進室）	企業等の事業者に対して、仕事と子育て等との両立への理解促進や働きやすい職場環境づくりを働きかける。 また、毎年11月をワーク・ライフ・バランス推進月間とし、その意義や必要性を企業等事業者や市民に周知する。	4,359	3,806	北九州市女性活躍・ワークライフバランス表彰受賞者数（累計）：94社 ワーク・ライフ・バランス推進に関する企業へのアドバイザー等の派遣：28回	北九州市女性活躍・ワークライフバランス表彰受賞者数（累積）	90社	94社	仕事と生活の調和が図られていると感じる人の割合	62.7%	62.8%	b:順調	女性活躍・ワークライフバランス表彰では新たに4社が受賞し、累計が94社となった。 また、女性活躍やワークライフバランスの推進に取り組む企業へのアドバイザー派遣、各種セミナー開催などの支援について、申込件数はR5年度とほぼ同程度（R5：27回→R6：28回）であり、これから取り組もうとする企業の参入になるよう、市内の様々な業種の企業の先進的な取組事例をホームページで紹介するなど、周知方法を工夫しながら実施することができた。 加えて、仕事と生活の調和が図られていると感じる人の割合は、前年度と近い水準を維持しているため、「順調」と判断。	企業については、仕事と生活の調和が図られていると感じる人の割合が今後さらに上昇していくよう、引き続き、各種支援を通じて意識改革を一層推進していく。また、事業の実施にあたっては、企業のニーズを踏まえ、効率的・効果的な事業実施を検討していく。		
	③-4	21	読み聞かせ・読書ボランティア養成講座	教育委員会 子ども図書館	読書を通して、子どもの豊かな感性と知的好奇心を育むため、読み聞かせなどが行えるボランティアの育成を図る。	311	259	4講座（初級・中級・ストーリーテリング・ブックトーク）を計11回実施した。	読み聞かせボランティア養成講座の 開催数	4回	4回	読み聞かせボランティア養成講座の 受講者数	170人	205人	b:順調	講座は例年通りの回数が実施でき、受講者数も増加したため「順調」と判断。	読書をする子どもを増やすには、大人の協力も欠かせない。子どもが読書活動に親しみ、読書の大切さを知ることができるよう、力強く支える大人を増やし、市立図書館や学校など市内で活動している読み聞かせボランティアなど読書に係るボランティアの育成、連携支援に取り組む。		
④生涯学習実施機関の ネットワークによる 学習機会の充実	③-6	22	・DIG（住民参加型 災害図上訓練） ・HUG（避難所運営 ゲーム）	危機管理室 危機管理課	DIG（ディグ）は、参加者が自分たちの住むまちの地図を囲み、書き込みを行いながら議論することで、わがまちに起こりうる災害像をより具体的にイメージできる訓練。 HUG（ハグ）は、避難所に見立てた模造紙や避難者に見立てたカードなどを活用し、参加者がプレイヤーとなり、避難所で起こる様々な出来事に対してゲーム感覚で避難所の運営を学ぶ訓練。	914	560	市民からの申し込みにより、 ・DIG 10回実施し、647人が参加した。 ・HUG 7回実施し、368人が参加した。	訓練参加人数	DIG 951人 HUG 273人	DIG 647人 HUG 368人	訓練参加人数	DIG 951人 HUG 273人	DIG 647人 HUG 368人	c:やや遅れ	R5年度の訓練参加人数より減少しているため「やや遅れ」と判断。 R5 1,224人 R6 1,015人	市のホームページの更新やSNSでの広報等を通じ、DIG及びHUGの実施について周知を図っている。また、出前講演等の機会を捉えて、DIG及びHUGのチラシを配布する等、引き続き広く市民に参加を呼び掛ける。		
	④	23	学びから活動への仕組みづくり	総務市民局 生涯学習総合センター	行政や大学など様々な学習の場で、学んだ人にアンケートを行い、「学んだ成果を活動に活かしたい」と答えた人を、市民センターや市民活動推進課、ボランティア・市民活動センターを通じて、活動を行っている団体（自治会・まちづくり協議会、NPO、ボランティア等）へとつなぐ事業を実施する。	予算措置なし	予算措置なし	R6年度のマッチング実績について、市民センターで実施される生涯学習講座と市民カレッジのマッチング希望者1,436人（R5年度1,623人）のうち、成功件数は195件（R5年度248件）であった。				人材マッチング事業 実施件数	248件	195件	c:やや遅れ	R5年度に比べ、マッチング希望者数、成功件数とも下回っており、特に市民カレッジからのマッチング成功件数は0件（R5年度15件）であったため「やや遅れ」と判断。	市民カレッジについては、受講者へのアンケートや情報提供を積極的に行うなど、「学び」から「活動」に繋げ、循環型生涯学習社会の実現に向けマッチングの方法等について見直しを図っていきたい。		

施策の柱1 誰もが気軽に「学び」と「活動」に参加できる環境づくり

			← 計		→		← 実		績		→		← 評 価 ・ 方 向 性		→		
具体的な施策	取組	番号	事務事業	所管課	概要（目的）	R6年度 予算額 （千円）	R6年度 決算額 （千円）	令和6年度実績・実施状況	活動指標	R5年度	R6年度	成果指標	R5年度	R6年度	R6年度 進捗 状況	進捗状況の評価理由	今後の方向性
(4) 学びと活動の場づくり ①学んだ成果を生かす 仕組み ②生涯学習関連施設の 整備	①	24	「まなびネットひまわり」（講師登録及び依頼）	総務市民局 生涯学習総合センター	「まなびネットひまわり」の機能である講師登録及び、講師を依頼したい人と登録講師とのマッチングをすることで「学び」と「活動」の循環を目指す。	まなびネットひまわりに含む	まなびネットひまわりに含む	講師依頼に対するマッチングを行った。	まなびネットひまわりへのアクセス数	9,399件	12,763件	まなびネットひまわり講師依頼件数	23件	11件	c:やや遅れ	HPへのアクセス数は前年度から増加しているものの、講師依頼件数は減少したため「やや遅れ」と判断。	登録講師の活用を増加を図るため、市民センターへの周知等、より一層のPRに努めていく。
	①	25	市民センタークラブ	総務市民局 生涯学習課	生涯学習市民講座終了後、さらに継続的な学習を希望する人々で作られたクラブや自主的なサークル活動からスタートしたクラブ活動を支援、促進する。	予算措置なし	予算措置なし	クラブ登録数 3,999 (R7.4.1現在)				地域社会の発展に向けた貢献	100.0%	100.0%	b:順調	R6年度から活動要綱を改正し、クラブでの活動形態が市民センタークラブと自主学習グループ、多目的利用となった。そのため、市民センタークラブ数はR5年度より減少しているが、様々な形態で活動ができていたため「順調」と判断。	円滑なクラブ等の運営のため、市民センタークラブ、自主学習グループ、多目的利用の整理を行う。
	②	26	美術館企画展充実実事業	都市ブランド創造局 美術館	美術館において、多彩で魅力ある展覧会を開催し、本市の美術・文化の振興を積極的に推進する。	110,025	84,191	開館50周年であったため、年度を通じて大型企画展を開催した。R6.4.1より分館が休止となったが、入館者総数は、前年度を上回ることとなった。	展覧会開催回数	114回	100回	美術館入館者数	138,767人	195,862人	b:順調	令和6年度は分館が休止したが、入館者総数は大きく前年を上回ったため「順調」と判断。	令和6年度は開館50周年記念により大型展覧会を開催し、例年より注目度が高かったことが前年に比べて大幅な入館者増に影響したとも考えられる。今後は、教育普及事業と連携し、来館者の年齢層や個人から家族への来館単位の変化に合わせた企画展を研究し、より効果的な広報PRを行うなど、来館者数の増加につなげたい。
	②	27	博物館企画展・特別展充実実事業	都市ブランド創造局 自然史・歴史博物館	入館者の増加につながる、魅力ある大型特別展を開催し、さらなる賑わいの創出を図る。	55,500	53,524	「ソクソク発見！両生類・は虫類展」や「お菓子のむかしはなし展」など特別展を5回実施。	企画展・特別展入館者数	131,469人	165,404人	博物館総入館数	431,278人	472,957人	a:大変順調	入館者数が目標を大きく上回っていることから評価は「順調」と判断。	今後も魅力のある展示を開催するとともに、国内外の観光客等の誘致にむけ、更なる効果的な広報PRや、団体客誘致のための取り組み等を行う必要がある。
	②	28	平和のまちミュージアムの運営	総務市民局 平和のまちミュージアム事務局	戦争被害、戦時下の人々の暮らし等に関する資料の収集、保存、展示等を行うこと等により、戦争の悲惨さを伝え、もって市民が平和の大切さや命の尊さを考えるきっかけとする。	22,953	22,002	「北九州市平和のまちミュージアム」の円滑な運営に努め、様々な企画展やイベントの開催等により、ミュージアムの周知、来場促進を図った。	利用者数	21,230人	15,741人	利用者数	21,230人	15,741人	c:やや遅れ	他都市（他館）との連携による集客力のある企画展の開催や、平和に向けて取り組む若者団体の活動支援などに取り組んだが、年間来館者数が当初の目標を下回っており、「やや遅れ」と判断。	平和のまちミュージアムへの来館者増を図るため、引き続き集客力のある企画展・イベント等を実施するとともに、学校や地域と連携し、平和学習の拠点としての機能向上を図る。
	②	29	北九州市科学館スペースLABO運営経費	都市ブランド創造局 科学館	北九州市科学館スペースLABOを魅力ある施設として運営することにより、将来を担う技術系人材の育成を図るとともに、修学旅行生や観光客を呼び込むことで、東田地区全体の賑わいに寄与する。	503,632	485,735	将来を担う技術系人材の育成や東田地区全体の賑わいに寄与するため、常設展及びプラネタリウムの運営に加え、教育普及講座や特別企画展等を実施した。	入館者数	398,883人	338,387人	入館者数	398,883人	338,387人	c:やや遅れ	入館者数及びクラブ活動講座等の参加者が前年を下回っており「やや遅れ」と判断。	引き続き、未来の人材育成に資する事業に努めるとともに、近隣施設と連携した取組を実施する。
	②	30	折尾まちづくり記念館の運営	総務市民局 地域振興課	折尾のまちづくりの歴史に関する情報の収集及び提供を行うとともに、住民等の交流及び自主的活動の場を提供することにより、折尾のまちづくりを推進する。	17,510	17,510	【指定管理】 開館以降、利用者や満足度は継続して高く、地域の方を中心に多く活用されている。 また、近隣の教育機関と連携したイベントの実施を行うなど、主催事業にも力を入れており、幅広い世代の利用促進に繋がった。	イベント開催回数	95回	62回	入館者数	143,274人	200,038人	b:順調	折尾のまちづくりの歴史に関する資料の収集数や交流イベントの開催数など目標値を上回っているため「順調」と判断。	【指定管理】 施設の設置目的への理解度を深めるとともに、体系的で計画的な事業の展開を行う。 また、折尾のまちづくりに資する施設として、まちづくりの視点で、地域との連携の強化を図る。

施策の柱2 「学び」と「活動」による人づくり

1 全体評価

令和5年度	令和6年度	
C やや遅れ	C やや遅れ	<p>(1) 指標では、「ボランティア登録人数」が、R6年度290人減少して前年度比2.5ポイント下がっている。「地域活動に参加した人の割合」は30.7%と前年度比1ポイント上がっている。「『学習成果を地域活動やボランティア活動など社会に貢献したい』と回答した人の割合」は、89.3%と前年度比7.5ポイント上がっている。「『地域活動のリーダーやボランティアが増加していると感じる』と回答した人の割合」は、26.0%となっている。</p> <p>(2) モニタリング項目では、ボランティア大学校の研修の受講者数、子育てサポーター登録者数は、前年度から減少している。年長者大学校修了生の地域活動への参加状況は、72.0%で前年度比18ポイント上がり、ボランティアコーディネーターによるコーディネートした件数も前年度比117件増加しているが、生涯学習推進コーディネーターの配置割合は、30.0%で前年度比6.9ポイント下がっている。</p> <p>(3) 事業評価表の個別事業については、概ね「順調」である。</p> <p>総体的には「C やや遅れ」とした。ボランティア活動に関する研修受講者や登録人数等の一部に減少傾向が見られることから、新たな人材の発掘・育成に努めるとともに、ボランティア活動や地域活動に参加している人のスキルや満足度がさらに高められるよう図っていく。</p>

2 指標等

◎指標				現状値	参考					目標
R5 評価	R6 評価	指標		R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
A	B	ボランティア登録人数 《所管課集計》	参考値			前年度以上	前年度以上	前年度以上	前年度以上	前年度以上
			実績	22,858	19,497	17,075	18,320	18,479	18,189	
			達成率			87.6%	107.3%	100.9%	98.4%	
D	D	地域活動に参加した人の割合 《市民アンケート調査》	参考値			46.0%	50.0%	50.0%	50.0%	50%
			実績	42.1%	33.9%	32.0%	29.2%	29.7%	30.7%	
			達成率			69.6%	58.4%	59.4%	61.4%	
C	B	「学習成果を地域活動やボランティア活動など社会に貢献したい」と回答した人の割合 《市政モニターアンケート》	参考値			87.7%	89.5%	91.4%	93.2%	95%
			実績	85.9%	81.7%	93.5%	95.6%	81.8%	89.3%	
			達成率			106.6%	106.8%	89.5%	95.8%	
—	D	「地域活動のリーダーやボランティアが増加していると感じる」と回答した人の割合 《市政モニターアンケート》	参考値			34.5%	38.4%	42.2%	46.1%	50%
			実績	30.6%	37.5%	30.1%	32.4%	アンケート実施なし	26.0%	
			達成率			87.2%	84.4%	—	56.4%	

A：大変順調（100%以上） B：順調（90%以上） C：やや遅れ（70%以上） D：遅れ（70%未満）

◎モニタリング項目

全12項目中  4項目  7項目  1項目  0項目

R5 推移	R6 推移	モニタリング項目	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
		○ボランティア研修の受講者数	2,174人	1,781人	1,853人	1,956人	1,263人	
		○地域防災の新たな担い手を育成した人数	75人	104人	130人	96人	114人	
		○新しく健康づくり推進員になった人数	コロナにより養成講座中止	99人	28人	25人	35人	
		○子育てサポーター登録者数	1,425人	1,508人	1,493人	1,549人	1,424人	
		○子育てサポーターリーダー配置割合	68.5%	73.0%	73.0%	75.4%	75.4%	
		○新規設立NPO法人数	12法人	14法人	11法人	10法人	9法人	
		○ボランティア登録団体数	616団体	537団体	583団体	616団体	612団体	
		○地域づくりのリーダー育成につながるセミナー受講者数（合計）	21人	46人	26人	41人	21人	
		地域力アップセミナー 受講者数	21人	20人	16人	17人	13人	
		女性リーダー国内研修 受講者数	0人	13人	0人	11人	0人	
		生涯学習指導者育成セミナー 受講者数	コロナにより中止	13人	10人	13人	8人	
		○年長者大学校修了生の地域活動への参加状況	50.0%	48.4%	50.0%	54.0%	72.0%	
		○生涯学習推進コーディネーター配置割合	46.2%	50.8%	36.9%	36.9%	30.0%	
		○ボランティアコーディネーターによるコーディネートした件数	2,150件	2,690件	4,386件	4,801件	4,918件	
		○新しく地域学校協働活動推進員（旧地域コーディネーター）になった人数	38人	10人	23人	36人	23人	

施策の柱2 「学び」と「活動」による人づくり

			← 計		→	← 実		→	← 績		→	← 評 価 ・ 方 向 性		→			
具体的な施策	取組	番号	事務事業	所管課	概要（目的）	R6年度 予算額 （千円）	R6年度 決算額 （千円）	令和6年度実績・実施状況	活動指標	R5年度	R6年度	成果指標	R5年度	R6年度	R6年度 進捗 状況	進捗状況の評価理由	今後の方向性
(1)「学び」と「活動」を 通した人材の発掘・育成 ①地域ボランティアの 発掘・育成	①	31	地域福祉ボランティ ア研修事業	保健福祉局 地域福祉推進課	地域ニーズに対応した研修内容の充実、 研修機会の拡大に努め、地域福祉やボラン ティア活動を担う人材の養成を行う。	25,300	25,295	ニーズ・関心の高まっている 「新たな福祉課題」に対応するた めのボランティアの養成や、活動 者の資質向上を図るための取組を 進めた。	ボランティア大学校 の研修・講習の開催 回数	39回	23回	ボランティア大学校 の研修の受講者数 （単年度）	1,956人	1,263人	b:順調	予算の減額に伴い、開催回数お よび受講者数が減少しているが、 継続的な情報発信による研修機 会の拡大やボランティア活動を担 う人材の養成に寄与していると思 えられるため「順調」と判断。	研修受講後に実際の活動につな ぐまでの一貫した支援を行い、市 民のボランティア・市民活動への 参加を促進し、引き続き地域福祉 の向上を図っていく。
	①	32	ボランティア活動促 進事業	保健福祉局 地域福祉推進課	地域福祉の振興を図るため、北九州市社 会福祉協議会が実施しているボラン ティアの育成、コーディネート、活動支援、関係 機関との連携による情報収集・発信等のボ ランティア活動促進事業に対して補助して いる。	25,300	25,300	若者の自立支援機関と連携し、 社会に踏み出したいと考えている 若者に対してボランティア活動へ の参加機会を提供した。	ボランティア活動に 関する相談件数	35,986件	37,890件	ボラン ティア 登録団体 数	616団体	612団体	b:順調	継続的なボランティアの啓発や 活動支援により、ボランティア登 録団体数及びボランティア人口 は、令和5年度と同程度の成果が 出ているため、「順調」と判断。	研修受講後に実際の活動につな ぐまでの一貫した支援を行い、市 民のボランティア・市民活動への 参加を促進し、引き続き地域福祉 の向上を図っていく。
	①	33	NPO・市民活動促進 事業	総務市民局 市民活動推進課	市民主体のまちづくりを推進するため、 市民活動サポートセンターを拠点として、 NPO・市民活動や協働等に関する相談・助 言、情報提供、講座の開催、NPO法人設 立・運営支援などを行う。	17,397	19,498	講座は、団体のニーズの変化に あわせて講座内容を変更し、参加 しなくなるような講座を実施。新 規設立法人数は昨年より減ったも のの例年とおりの設立数であっ た。	講座実施数	16件	17件	新規設立NPO法人 数（累計）	10法人	9法人	b:順調	講座実施数、新規設立NPO法人 数ともに順調に推移しているた め、「順調」と判断。	市民活動を促進する講座の実施 や情報提供の充実を図っていく。
	①	34	みんな de Bousai まちづくり人材育成 事業	危機管理室 危機管理課	大学と協働し、防災科目を新設するな ど、市内の大学生を対象に、防災教育を 実施し、学生自身が災害時に主体的に判断し 行動できる知識を身につけ、地域コミュニ ティにおいて新たな地域防災の担い手とし て活動できる人材を育成する。	1,608	499	北九州市立大学と協働し、防災 授業「地域防災への招待」（全15 コマ）を実施したほか、市内大学 生を対象とした公開講座 （R6.5.25）を開催した。	地域防災の新たな 担い手を育成した人 数	96人	114人	地域防災の新たな 担い手育成した人 数	96人	114人	a:大変順 調	地域防災の新たな担い手育成人数 が昨年度より大幅に上回ってい るため、「大変順調」と判断。	引き続き対面での授業に加え、 オンラインでのライブ配信やアー カイブ配信を行い、学生に多様な 学習の機会を提供することで、地 域防災を担う人材の育成を行う。
	①	35	子育てネットワー クの充実	総務市民局 生涯学習課	子育て中の親子を温かく迎え入れ、身近 な相談相手になるとともに、親子同士をつ なぎ、親子の成長を地域で見守る環境づく りのため、「子育てサポーター」を育成す る。	270	307	登録者数 1,424人 うち子育てサポーターリーダー登 録者数 165人	子育てサポーター 養成講座の実施	実施	実施	子育てサポーター 登録者数	1,549人	1,424人	c:やや遅 れ	子育てサポーター登録数は前年 比9.2％と減少しており、令和6 年度新規登録者数は120人いる 一方、辞退者等が多いため 「やや遅れ」と判断。	子育てサポーターの養成後、実 際の活動へと円滑につながり、登 録者を継続的に促すため、サポ ーターが活躍できる講座の開催や 活動の場の提供を図るとともに、 フォローアップ研修の充実を図 る。
	②	36	住民主体の地域づく りの促進	総務市民局 地域振興課	地域コミュニティの重要性の理解促進を 図ることを目的とした各種事業を通じて、 住民主体の地域づくりを促進する。	2,006	726	地域づくり活動への参加者の割合 目標50% 実績30.7% 達成率 61.4%	まちづくり専門家派 遣事業を利用したま ちづくり協議会の割 合	25.0%	30.00%	地域づくり活動への 参加者の割合	29.7%	30.7%	b:順調	「まちづくり専門家派遣事業を 利用したまちづくり協議会の割 合」は30.0%、「地域づくり活動 への参加者の割合」は30.7%であ り、いずれもR5年度の実績を上 回っているため「順調」と判断。	まちづくり協議会等の地域団体 に地域の課題解決に主体的に取 組んでいただくため、まちづくり 専門家派遣制度の活用など、地 域の実情やニーズに応じた支援を 行う。
	②	37	地域力アップセミ ナー	総務市民局 生涯学習総合セン ター	地域への帰属感や連帯感を共有でき、学 んだ成果を地域で活かすことができる人材 の育成を目的としており、受講者が自ら 学習し、主体的に関わることで地域づくり を実践的に学ぶ講座となっている。	柱1/北九州市 民力レレッジ事 業に含む	柱1/北九州市 民力レレッジ事 業に含む	実施期間：6/4～8/6 講座回数：10回（4時間/回） 受講者数：13名 単位認定者：12名	受講者数	17名	13名	受講者の満足度	91.7%	100.0%	b:順調	受講者の満足度は、「大変参考 になった」「参考になった」を合 わせて100%であったが、受講者 数が減少傾向にあるため「順調 」と判断。	講座内容がマンネリ化しないよ うに、新しい講師やテーマの見直し 等工夫していきたい。満足さ でなく、受講者数を増やすこと にも努めていきたい。
	②	38	健康づくり推進員養 成・活動支援事業	保健福祉局 認知症支援・介護予 防課	市民主体の健康づくりを推進するため、 地域における健康づくり活動のリーダーの 育成を行う。	3,918	3,871	養成研修の内容を一部変更し、 R6年度から「初任者研修」として 実施することができた。また、地 域での健康づくり推進員の活動を 適宜支援することができた。	養成研修の受講者数	25人	35人	健康づく り推進員 が関わる 活動への 参加者数 の増加	263,068 人	277,268 人	b:順調	健康づくり推進員初任者研修、ス キルアップ研修、ステップアップ 研修等を地域で健康づくりや介護 予防活動をするうえで必要な内容 に適宜調整しながら実施すること ができた。また、安全に活動を継 続できた。以上から「順調」と判断。	健康づくり・介護予防活動を安全 に継続できるようにする。引き続 き、高血圧予防、オーラルヘル ス、フレイル予防に関する活動を 継続しながら、健康に関する学習 等も深めていく。
	②	39	生涯学習指導者育成 セミナー	総務市民局 生涯学習課	地域課題に対する地域福祉活動、まちづ くり推進活動、子育て活動などに総合的に 取り組める、生涯学習を推進するための人 材育成を目指す。	750	750	市民の力を活用したまちづくり や生涯学習を推進するための人材 育成を目的に高度かつ専門的な地 域・技術の習得に向けた研修を実 施した。受講者数 8名	生涯学習指導者育成 セミナーの実施	実施	実施	生涯学習指導者育成 セミナー修了率	100.0%	100.0%	b:順調	生涯学習指導者育成セミナー修 了率がR5年度に引き続き100% であったため、「順調」と判断。	本市の生涯学習の取り組みや受 講者の声を踏まえ、実施回数の見 直しや内容の充実を図る。
	②	40	地域における女性 リーダー育成セミ ナー	総務市民局 生涯学習総合セン ター	人材育成事業の一環として、地域活動の 担い手、リーダーを目指す女性を対象に実 施するもの。地域活動をするうえで必要 な視野や視点を育むとともに、課題解決に 向けて自分に何ができるかを考え、行動する 力を育む。	166	0	中止	国内研修応募者数	11名	0名	研修参加者の満足度	100.0%	0.0%	d:遅れ	応募者がなく、中止となったた め「遅れ」と判断。	講座回数、時間を見直し受講し やすい講座にするとともに、地域 の担い手となる女性人材の育成に 重点を置いた内容に見直したい。

施策の柱2 「学び」と「活動」による人づくり

			← 計 画 →			← 実 績 →								← 評 価 ・ 方 向 性 →			
具体的な施策	取組	番号	事務事業	所管課	概要（目的）	R6年度 予算額 （千円）	R6年度 決算額 （千円）	令和6年度実績・実施状況	活動指標	R5年度	R6年度	成果指標	R5年度	R6年度	R6年度 進捗 状況	進捗状況の評価理由	今後の方向性
(2)「学び」と「活動」をつなぐ人材の発掘・育成 ①「学び」と「活動」をコーディネートする人材の発掘・育成	①	41	社会教育・生涯学習関係職員研修の充実	総務市民局 生涯学習課	社会教育施設や市民センター、地域における学習・交流の機会の提供は、現代的・社会的課題の解決に向けてますます重要になってくる。 今後もこれらの施設で、多様かつ有効な生涯学習事業等を推進することができるよう、関係する職員等の研修の充実を図る。	639	578	・市民センター館長研修 開催回数10回 ・市民センター職員等研修会 開催回数1回	市民センター職員等 研修会参加者数	234人	285人	参加者の満足度	91.0%	95.7%	a:大変順調	市民センター館長研修は、R5年度と同様に研修を企画・実施することができた。 また、市民センター職員等研修会では、参加者数が昨年度から約50名増加、満足度も上昇していることから「大変順調」と判断。	引き続き、研修の中で、社会教育・生涯学習事業に関する事例発表や市民センター館長同士、職員同士の情報交換を行う機会を設ける。
	①	42	生涯学習推進コーディネーター配置事業	総務市民局 生涯学習課	全市の生涯学習推進コーディネーターが一堂に会し、意見交換や情報交換を行い、交流を深めることで、より地域の学びと活動を活性化する専門人材となるよう研修会を実施する。	2,561	1,808	研修実施 登録者数 39名 市民センターへの配置割合 30.0%	生涯学習推進コーディネーター研修会の実施	100.0%	100.0%	生涯学習推進コーディネーターの配置割合	36.9%	30.0%	d:遅れ	生涯学習推進コーディネーターの市民センターにおける配置割合が、R5年度と比べ6.9%減少しているため「遅れ」と判断。	生涯学習推進コーディネーター配置の意義、効果に加え、人材の見つけ方などを市民センター館長に社会教育主事等が助言しながら、配置割合の増加に向けて取り組む。 また、生涯学習推進コーディネーターを地域の人材として育成するための研修を実施し、研修で学んだ内容を実践につなげられるように支援を行う。
	①	43	地域学校協働活動推進員（地域学校協働活動事業）	教育委員会 次世代教育推進課	地域等と学校とのパイプ役として、学校の要望に応じて、スクールヘルパー等の人材を発掘し、「地域学校協働活動」を推進する。	柱3/コミュニティ・スクール事業に含む	柱3/コミュニティ・スクール事業に含む	地域学校協働活動推進員研修会を実施し、活動内容の周知と促進を図った。また地域学校協働推進員とコミュニティ・スクールの一体的な充実について、周知を行った。	学校支援地域本部設置中学校区数	62校区	62校区	各実施校から得られた教育的効果	52校	57校	b:順調	各校区の報告書から、各校区によって地域の特色ある取組を行っていることが伺えるため、「順調」と判断。	地域学校協働活動推進員の実践発表会を行い、各学校の取組を共有する。また、学校運営協議会への積極的な参加を促し、地域とともにある学校づくりを推進していく。

施策の柱3 「学び」と「活動」によるつながりづくり

1 全体評価

令和5年度	令和6年度	
B 順調	B 順調	<p>(1) 指標の「『活動を通じて、仲間や友人ができた』と回答した人の割合」は、32.1%と前年度比4.3ポイント下がっている。「『住んでいる地域や北九州市が好き』と回答した児童生徒の割合」は、R6年度は調査を行っていないため「数値なし」となっている。「『人の役に立つ人間になりたい』と思う児童生徒の割合」は、全国平均と同程度となっている。「『地域の行事に参加する』という児童生徒の割合」は、R6年度は本項目に関する質問がなかったため「数値なし」となっている。「『子育てに関する悩みや不安を感じる』と回答した保護者の割合」は、いずれも前年度から増加している。「地域・子ども交流事業参加者数」は、前年度比5,819人減少している。</p> <p>(2) モニタリング項目を見ると、各区におけるニュースポーツ及びファミリースポーツ大会の参加人数が増加している。青少年ボランティアステーションにおけるボランティア体験活動者数も前年度と同程度となっている。地域・子ども交流事業の開催回数は、前年度比412回減少している。</p> <p>(3) 事業評価表の個別事業については、概ね「順調」である。</p> <p>総体的には「B 順調」とした。今後も各事業を通じて、子どもたちが地域に親しみをもち、人や社会に関心を持てるよう、人や地域などとのつながりの機会を広げていく。</p>

2 指標等

◎指標					現状値	参考					目標
R5 評価	R6 評価	指標			R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
D	D	「活動を通じて、仲間や友人ができた」と回答した人の割合 《市政モニターアンケート》		参考値			48.3%	51.2%	54.1%	57.1%	60%
				実績	45.4%	48.5%	37.7%	26.7%	36.4%	32.1%	
				達成率			78.1%	52.1%	67.3%	56.2%	
A	—	「住んでいる地域や北九州市が好き」と回答した児童生徒の割合 《北九州市学力状況調査》	小5	参考値			前年度以上	前年度以上	前年度以上	前年度以上	前年度以上
				実績	89.7%	91.1%	92.6%	93.9%	94.3%		
				達成率			101.6%	101.4%	100.4%		
			中2	参考値			前年度以上	前年度以上	前年度以上	前年度以上	
				実績	87.3%	85.7%	88.7%	89.8%	89.3%		
				達成率			103.5%	101.9%	100.0%		
B	B	「人の役に立つ人間になりたい」と思う児童生徒の割合 《全国学力・学習状況調査》	小6	参考値			全国平均以上	全国平均以上	全国平均以上	全国平均以上	全国平均以上
				実績	94.4%	—	95.4%	95.1%	95.7%	96.2%	
				国(実績)	95.2%	—	95.5%	95.1%	95.9%	95.9%	
				達成率			99.9%	100.0%	99.8%	100.3%	
			中3	参考値			全国平均以上	全国平均以上	全国平均以上	全国平均以上	
				実績	94.5%	—	95.3%	94.9%	94.4%	94.9%	
				国(実績)	94.3%	—	95.0%	95.0%	94.6%	95.2%	
				達成率			100.3%	99.9%	99.8%	99.7%	

R5 評価	R6 評価	指標			現状値	参考	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	目標
					R元年度	R2年度					
B	—	「地域の行事に参加する」 という児童生徒の割合 《全国学力・学習状況調査》	小6	参考値			全国平均 以上	全国平均 以上	全国平均 以上	全国平均 以上	全国 平均 以上
				実績	71.9%	—	59.7%	50.5%	49.8%		
				国 (実績)	68.0%	—	58.1%	52.7%	57.8%		
				達成率			102.8%	95.8%	86.2%		
			中3	参考値			全国平均 以上	全国平均 以上	全国平均 以上	全国平均 以上	
				実績	59.2%	—	46.4%	35.4%	39.0%		
				国 (実績)	50.6%	—	43.7%	40.0%	38.0%		
				達成率			106.2%	88.5%	102.6%		
C	D	「子育てに関する悩みや 不安を感じる」と回答 した保護者の割合 《元気発進！子どもプラン（第 3次計画）」点検・評価に伴う 市民アンケート》	就学前 児童	参考値			現状値 以下	現状値 以下	現状値 以下	現状値 以下	現状値 以下
				実績	35.50%	40.9%	41.0%	44.3%	44.4%	59.4%	
				達成率			86.6%	80.1%	80.0%	59.8%	
			小学生	参考値			現状値 以下	現状値 以下	現状値 以下	現状値 以下	
				実績	41.6%	39.6%	44.4%	47.6%	50.8%	64.2%	
				達成率			93.7%	87.4%	81.9%	64.8%	
			中・ 高生	参考値			現状値 以下	現状値 以下	現状値 以下	現状値 以下	
				実績	40.2%	43.6%	43.5%	53.8%	44.7%	64.1%	
				達成率			92.4%	74.7%	89.9%	62.7%	
A	C	地域・子ども交流事業 参加者数（人） 《所管課集計》		参考値			前年度 以上	前年度 以上	前年度 以上	前年度 以上	前年度 以上
				実績	55,370	14,390	19,538	33,361	40,298	34,479	
				達成率			135.8%	170.7%	120.8%	85.6%	

A：大変順調（100%以上）

B：順調（90%以上）

C：やや遅れ（70%以上）

D：遅れ（70%未満）

◎モニタリング項目

全13項目中



3項目



7項目



2項目



1項目

R5 推移	R6 推移	モニタリング項目	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
↗	↘	○文化財に関する一般向け・子ども向け講座の開催回数	コロナにより中止	コロナにより中止	コロナにより中止	2回	1回	
↗	↘	○文化財に関する一般向け・子ども向け講座の参加人数	コロナにより中止	コロナにより中止	コロナにより中止	34人	17人	
—	→	○文化財に関する小学校等への出前講座開催回数	コロナにより中止	コロナにより中止	コロナにより中止	0	0	
—	→	○文化財に関する小学校等への出前参加人数	コロナにより中止	コロナにより中止	コロナにより中止	0	0	
↗	↗	○各区におけるニュースポーツ及びファミリースポーツ大会の参加人数	428人	262人	1,867人	2,639人	3,970人	
↗	↗	○スポーツ観戦率	15.2%	14.9%	19.9%	22.9%	23.8%	
↘	↘	○朝食を毎日「食べている」「どちらかといえば食べている」と回答した児童生徒の割合	調査中止	小6：92.0% 中3：90.9%	小6：91.3% 中3：89.7%	小6：89.6% 中3：88.1%	小6：89.4% 中3：87.8%	
↘	—	○家庭教育学級長向けアンケート満足度	調査中止	71.7%	91.0%	86.0%	調査中止	
↘	↘	○コミュニティ・スクール（学校運営協議会）委員に参画している地域関係者の人数	市型622人	市型846人 国型17人	市型982人 国型71人	市型983人 国型67人	市型876人 国型158人	
↗	↗	○地域学校協働活動事業の実施校において、教育的効果があったと回答した学校の数	33校	39校	48校	52校	57校	
↗	↘	○青少年ボランティアステーションにおけるボランティア体験活動者数	2,329人	2,973人	3,852人	3,983人	3,979人	
↘	↘	○新科学館の入館者数	実績なし	実績なし	510,063人	398,883人	338,387人	
↗	↘	○地域・子ども交流事業開催回数	818回	818回	1,530回	1,777回	1,365回	

施策の柱3 「学び」と「活動」によるつながりづくり

			← 計 画 →				← 実 績 →				← 績 績 →				← 評 価 ・ 方 向 性 →			
具体的な施策	取組	番号	事務事業	所管課	概要（目的）	R6年度 予算額 (千円)	R6年度 決算額 (千円)	令和6年度実績・実施状況	活動指標	R5年度	R6年度	成果指標	R5年度	R6年度	R6年度 進捗 状況	進捗状況の評価理由	今後の方向性	
(1)「学び」と「活動」による仲間づくり ①「学び」と「活動」をきっかけにした仲間づくり	①	44	家庭教育学級講座の充実	総務市民局 生涯学習課	家庭教育力の向上をめざし、保護者が家庭で子どもの教育をする心構えや、子どもとの接し方、教育上の留意点などを相互学習の中で主体的に学習する場として開設する。	1,542	1,832	市民センター、市立幼稚園、小学校、中学校、特別支援学校 173回 私立幼稚園、保育園 62回 直営保育園 9回 合計244回	家庭教育学級講座の実施	257回	244回	家庭教育学級講座参加者数	16,688人	17,090人	b:順調	R6年度から保護者の負担軽減を目的に、「家庭教育学級」から市民センターが主体となって実施する「家庭教育講座」へと運営方法を改めた。この運営方法の変更後も、家庭教育講座の参加人数は前年比で増加していることから、「順調」と判断。	今後も家庭教育講座の運営方法については継続的に検討を進め、オンラインでの家庭教育講座の実施なども含めて、多角的に検討していく。	
	①	45	地域・子ども交流事業	総務市民局 生涯学習課	地域の特色を活かし、地域ぐるみで子どもを見守り育てる意識を高めることを目的に家庭・地域・学校等が連携して、世代間交流や様々な体験活動の機会を提供する。	柱1/生涯学習 市民講座の充実に含む	柱1/生涯学習 市民講座の充実に含む	講座数 206 開催回数 1,365回 参加人数 34,479人				地域・子ども交流事業開催回数	1,762回	1,365回	c:やや遅れ	講座数は前年比84%、開催回数は前年比77%、参加人数は前年比87%と、講座数・参加人数ともに令和5年度より減少しているため、「やや遅れ」と判断。	引き続き、家庭・地域・学校等が連携した、世代間交流や様々な体験活動の機会等を提供していくとともに、オンライン開催も検討していく。	
	①-1	46	伝統文化の発掘・継承	都市ブランド創造局 文化企画課	指定無形民俗文化財保存団体の継承・保存活動を育成・支援する。	938	1,025	市内指定無形民俗文化財保護団体（15団体）に対して補助金を交付した。	指定無形民俗文化財の保護を目的とした保護団体との協議	16回	16回	指定無形民俗文化財保存支援団体数	15団体	15団体	b:順調	保護団体への周知と適切な協議を行い、前年度同数の文化財保護団体への支援を実施できたため「順調」と判断。	市内の指定文化財保護団体に対し、その文化財の保存・継承、および福祉啓発を支援するため、相談体制の維持と活動に対する補助金交付を継続する。	
	①-1	47	文化財の保存・継承	都市ブランド創造局 文化企画課	文化財の指定等にかかる諮問機関の運営等、文化財の保護、適切な管理のための取組みを推進する。	955	35	文化財の保存修理にかかる調査・協議を適時実施した。	文化財指定及び、文化財の保存修理に向けた調査・協議	実施	実施	文化財保護審議会の開催	1回	0回	b:順調	審議会は諮問事項がなく、開催がなかったものの、県指定案件について県・保護団体と緊密に連携し、文化財保護事業が実施できたため「順調」と判断。	文化財の指定、保存管理、購入及び埋蔵文化財の発掘調査を実施し、市内の文化財の保存活用を図る。	
	①-1	48	博物館セカンドスクール事業	都市ブランド創造局 自然史・歴史博物館	いのちのたび博物館を「第2の学校（教室）」と位置づけ、博物館への誘致事業・学校教育支援事業・家庭教育支援事業の3つの柱をかね、学校教育現場と博物館の結びつきの強化を図る。	2,300	1,883	県外の旅行社を訪問するなど、積極的な誘致活動を行った結果、学校団体誘致数が増加した。 学校団体数は増加しているが、学校関係者入館者数は若干減少した。 教員研修や各種団体が行うワークショップイベントへのブース出展をするなど広報活動を行った。 オンラインを活用した学校教育との連携事業を実施した。	学校団体誘致活動回数	85回	123社	学校団体誘致数	903団体	911団体	b:順調	学校関係入館者数は若干減少したが、誘致活動により、学校団体誘致数は増加した。 また、オンラインを活用した学校教育との連携事業の実施や教員研修、広報に資するワークショップイベントへのブース出展をすることで、集客・誘致に資することができた。 「b:順調」と評価した。	オンラインを活用し、学校教育との連携を深め、より一層の支援の推進を図る。 イベント等の実施や研修対象の拡充等の集客・誘致に資する活動の充実を図る。	
(2)つながりから生まれる地域への愛着・誇り ①シビックプライドの醸成（地域文化、生涯スポーツ）	①-2	49	生涯スポーツ振興事業（旧地域スポーツ振興事業）	都市ブランド創造局 スポーツ振興課	各区における地域スポーツの普及振興を図るため、ニュースポーツ用具の整備及び各種交流大会を実施する。	14,646	17,726	各区で様々なスポーツ行事を開催。	各区におけるスポーツ行事の開催数（定期的な開催）	33回	44回	各区におけるニュースポーツ及びファミリースポーツ大会の参加人数	2,639人	3,970人	b:順調	コロナ前の水準までは回復していないものの、R5年度と比較すると、開催行事数・参加者数ともに増加傾向にあるため、「順調」と判断。	各区における地域スポーツの普及振興を図るため、ニュースポーツ用具の整備及び各種交流大会を実施する。	
	①-2	50	総合型地域スポーツクラブ育成・支援事業	都市ブランド創造局 スポーツ振興課	子どもたちをはじめ地域の住民が誰でも、どこでも、いつでもスポーツを楽しむことができるよう、総合型スポーツクラブへの育成・支援を行う。	2,400	2,400	総合型地域スポーツクラブ連絡協議会での協働イベントや、各クラブでのスポーツ教室、イベント等を開催。	交流行事や勉強会の定期的な開催	23回	31回	総合型地域スポーツクラブの会員数	1,550人	1,736人	b:順調	年度によって増減があるものの、近年は行事数、会員数ともに増加傾向にあるため「順調」と判断。	子どもたちをはじめ地域の住民が誰でも、どこでも、いつでもスポーツを楽しむことができるよう、総合型スポーツクラブへの育成・支援を行う。	
	①-2	51	北九州マラソン開催事業	都市ブランド創造局 スポーツ振興課	スポーツの振興やまちのにぎわいづくりを図るため、1万人規模のマラソン大会を開催する。また、全国から参加するランナー等への食のおもてなしやコース沿いに位置する観光資源を通して、本市の魅力をPRし、シビックプライドの醸成を図る。	74,040	74,055	女性限定の「ウィメンズ20.4」を男女不問の「20.7kmマラソン」へ種目の見直しを行うとともに、YouTubeやインスタグラムにランナー及びボランティア募集広告を展開するなどSNSを活用した情報発信を行った。	市民のスポーツ・健康に対する意識の向上	継続的に実施	継続的に実施	インターネットでのマラソン大会全国評価ランキング（参加者7,000人以上の大会を対象）	8位	上位10位圏外	c:やや遅れ	「マラソン大会全国評価ランキング」で上位10位圏外という結果となり、また北九州マラソンと同日に開催された他大会のマラソンと比べても評価が低いため「やや遅れ」と判断。	引き続き安全・安心な実施を目指すとともに、積極的かつ時代に沿った広報を行い、幅広い世代での認知度の向上を図る。	
	①-2	52	ホームタウン推進事業	都市ブランド創造局 スポーツ振興課	本市をホームタウン・準ホームタウン等とする、トップスポーツチーム等の市民親善事業や体験教室の開催など、市民がスポーツに親しみきっかけ作りを実施。	58,000	53,558	本市をホームタウン・準ホームタウンとする、トップスポーツの市民親善事業や体験教室の開催など、市民がスポーツに親しみきっかけ作りを実施。	ギラヴァンツ北九州等のホームゲームの招待事業の実施	継続的に実施	継続的に実施	スポーツ観戦率	22.9%	23.8%	b:順調	市民がスポーツを見る機会の増加を推進する招待事業等に積極的に取り組み、親子招待事業等による観戦者や「スポーツ観戦率」が目標値に近づいていることから「順調」と判断。	今後も北九州スタジアムをはじめとする各スポーツ施設を活用した「見る」スポーツの更なる振興を図ることで、市民のスポーツ観戦率の向上に取り組んでいく。	

施策の柱3 「学び」と「活動」によるつながりづくり

			← 計 画 →			← 実 績 →										← 評 価 ・ 方 向 性 →		
具体的な施策	取組	番号	事務事業	所管課	概要(目的)	R6年度 予算額 (千円)	R6年度 決算額 (千円)	令和6年度実績・実施状況	活動指標	R5年度	R6年度	成果指標	R5年度	R6年度	R6年度 進捗 状況	進捗状況の評価理由	今後の方向性	
(3) 学校と家庭・地域が つながる教育力の向上 ①家庭教育支援の充実 ②家庭・地域・学校の 連携促進	①	53	親力アップ情報発信	総務市民局 生涯学習課	核家族化や共働き世帯など、子どもや家庭を取り巻く環境の変化に合わせて、いつでもどこでも家庭教育の役立つ情報が得られるよう、子育て支援につながる情報提供を行う。	1,188	459	R6年度は「キタキュー親力アップ漫画」の更なる周知を図るため漫画のノベルティグッズ(携帯除菌ウェットティッシュ)を制作し、全市民センターに配布した。				アクセス件数	7,390件	5,034件	c:やや遅れ	R6年度は漫画のPR活動を行ったが、成果指標であるアクセス件数は前年度に届かなかったため「やや遅れ」と判断。	子育て世代のニーズに合った新作漫画を制作し、PRの方法も検討していく。	
	②	54	コミュニティ・スクール事業	教育委員会 次世代教育推進課	学校運営及び学校運営に必要な支援に関して協議する「学校運営協議会」を設置、地域住民が学校運営への参画を促進し、学校と地域との連携を促進し、「地域とともにある学校づくり」を進める。	27,178	21,324	国型コミュニティ・スクールが19校増加し、それらの学校に対しては初回の訪問支援を行い、円滑な運営ができるようにした。	学校運営協議会の設置数(市型、国型)	市型 188校 国型 13校	市型 170校 国型 32校				b:順調	国型コミュニティ・スクールが19校増加し、その他の学校では全校で市型コミュニティ・スクールを実施したため、「順調」と判断。	今後も継続して国型のコミュニティ・スクールの検証や実践発表を行い、効果的な活用や重要性等を周知する。令和8年度にはすべての学校で国型コミュニティ・スクールを実施する。	
	③	55	地域学校協働活動事業	教育委員会 次世代教育推進課	多くの幅広い層の地域住民、団体等が参画し、また、活動を通じて地域社会全体の教育力の向上を図り、地域全体で子どもたちの成長を支え、地域を創生する活動を推進する。	コミュニティ・スクール事業に含む	コミュニティ・スクール事業に含む	地域学校協働活動推進員研修会を実施し、活動内容の周知と促進を図った。また地域学校協働推進員とコミュニティ・スクールの一体的な充実について、周知を行った。	学校支援地域本部設置中学校区数	62校区	62校	各実施校から得られた教育的効果	52校	57校	b:順調	各校区の報告書から、各校区によって地域の特色ある取り組みを行っていることが伺えるため、「順調」と判断。	地域学校協働活動推進員の実践発表会を行い、それぞれの学校の取組を共有する。また学校運営協議会への積極的な参加を促し、地域とともにある学校づくりを推進できるようにする。	
	③	56	青少年ボランティアステーション推進事業	子ども家庭局 子ども若者育成課	青少年の成長に欠かすことのできない様々な体験活動等を通じ、青少年が社会の構成員として規範意識や社会性、協調性等を身に付けることができるよう、青少年ボランティアステーションを拠点に、青少年の体験活動を支援、促進する。	1,400	1,382	ホームページの積極的活用とkintoneの使用、ボランティア活動証明書の電子化等により事務の効率化と経費の節減を図っている。また、ボランティア活用経験の豊富な主催者への管理移譲を進めることにより幅広いボランティア活動を提供し、北九州市の青少年のより豊かな人間性を育んでいくことを目指している。	「ボランティア出前事業」参加児童数・生徒数	83人	51人	青少年ボランティアステーションにおけるボランティア体験活動者数	3,983人	3,979人	b:順調	活動参加者数は横ばいだが、業務効率化については、かなりの成果が表れている。また、経費節減についても通信費の削減によってかなり進めることができたが、ボランティアに参加する青少年のすそ野を広げる上では、これ以上予算を削減することはできない。以上より「順調」と判断。	ボランティアの活用経験が豊富な主催団体等への管理体制サポートや活動のすそ野を広げる取り組みを継続することを通して、ボランティアに参加する青少年数の増加を図る。また、活動に意義を見出しレポートしてくる青少年を積極的にサポートしてボランティア活動のリーダー的存在に育成していきたい。	

生涯学習推進計画関連事業費 予算決算比較【令和6年度】

(単位:千円)

		R6予算【A】	R6決算【B】	不用額【A－B】
柱1	事業費	5,217,218	5,047,048	170,170
	内、主要施策	969,232	917,846	51,386
柱2	事業費	164,871	161,303	3,568
	内、主要施策	79,915	78,632	1,283
柱3	事業費	666,824	589,425	77,399
	内、主要施策	184,587	175,679	8,908
計	総事業費	6,048,913	5,797,776	251,137
	内、主要施策	1,233,734	1,172,157	61,577

生涯学習推進計画関連事業費 決算決算比較【令和5・6年度】

(単位:千円)

		R5決算【a】	R6決算【b】	増減【b－a】
柱1	事業費	5,421,400	5,047,048	-374,352
	内、主要施策	1,039,638	917,846	-121,792
柱2	事業費	165,909	161,303	-4,606
	内、主要施策	86,492	78,632	-7,860
柱3	事業費	534,551	589,425	54,874
	内、主要施策	165,476	175,679	10,203
計	総事業費	6,121,860	5,797,776	-324,084
	内、主要施策	1,291,606	1,172,157	-119,449

※事業費については、一部計上となっているものを除く。